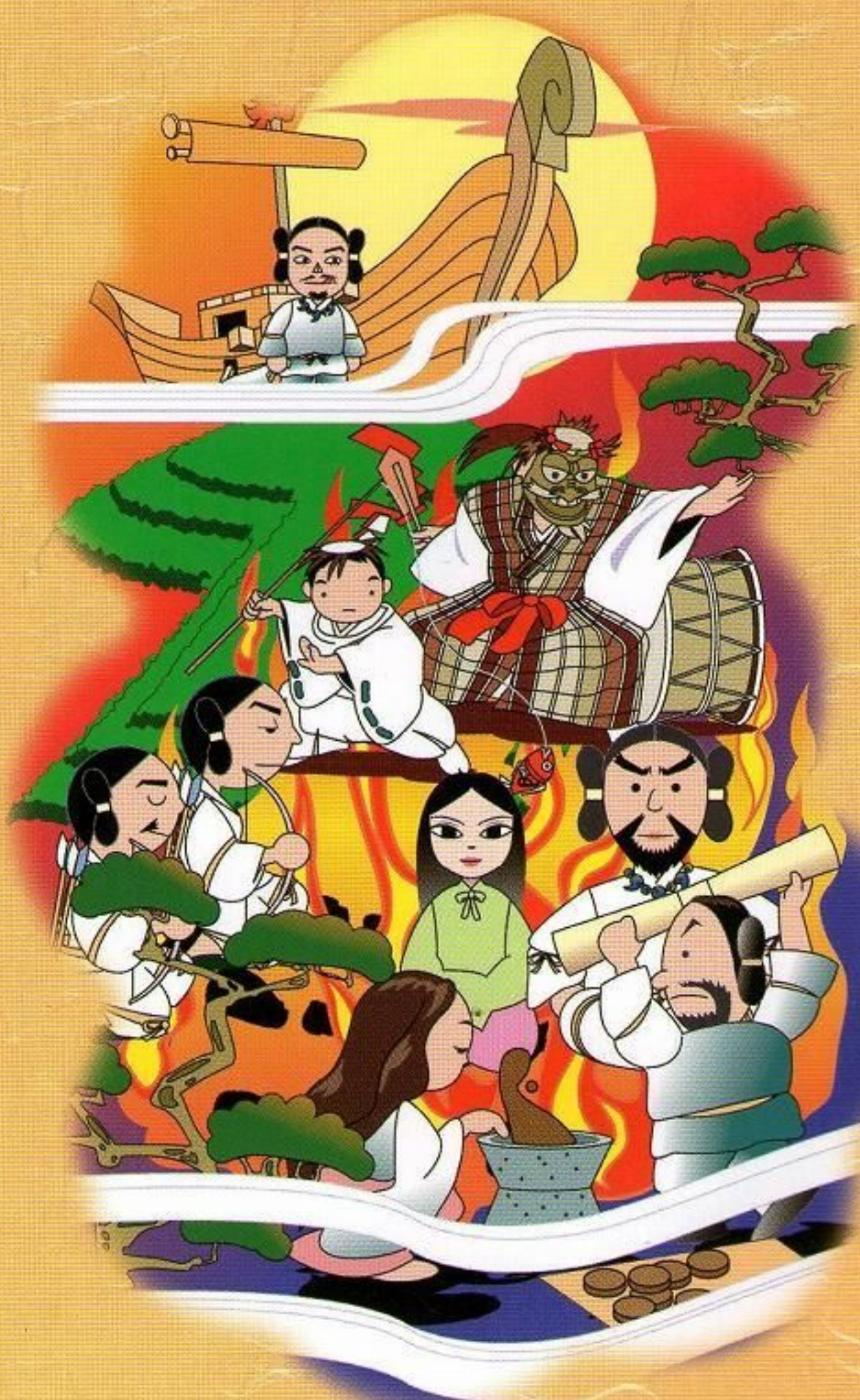


伝承・史跡・伝説

古事記に登場する神々や
古代に暮らす人々、
その息づかいが聞こえてきそう……。
そんな有形・無形の文化に
触れて楽しんでみる。



神楽といえば高千穂や椎葉・銀鏡が有名ですが、
宮崎市内にも多くの神楽が舞われています。

伝承神楽から、宮崎を知る。

宮崎市

天の岩戸に引きこもった天照大御神を引
つぱりだそうと、天宇受売命が陽気な踊り
を踊ったということが神楽の起源だともいわ
れています。

平安時代から中世にかけては素面で舞う
のが基本でしたが、近世以後は面を付けて
舞うのが流行りだしました。やがて国学の
発達によって、天の岩戸開きを主にしていく
などのような古事記・日本書紀からの解釈
が加えられていく神楽も出てきました。一方、
古事記・日本書紀の影響を受けることなく、

修験者に舞われていた作法
そのままを守り伝えてい
るところもあります。さ
らに山や海への信仰、そ
れぞれの土地の民俗性なども加わり、
神楽は生活の安定を願い、農作
や漁や狩猟の豊穰を祈る祭
りとして年中行事となってい
きました。現在は実に多様
な神楽から歴史や文化を楽
しむことができます。

●宮崎市内の神楽●

青島神社神楽「青島神社」宮崎市青島

灘祭において、豊漁祈願を祈って鵜戸舞と鬼神の
舞が舞われる。(三月中旬)

跡江神社神楽「跡江神社」宮崎市大字跡江

(三月中旬・旧暦初午)



●生目神楽

生目神楽「生目神社」宮崎市大字生目

厄払い・五穀豊穰を祈り、鬼神・荒神舞、剣舞、
氏舞、薙刀舞などが舞われる。(三月中旬)

浮田神社春神楽「浮田神社」宮崎市大字浮田

(三月)

江田神楽「江田神社」宮崎市阿波岐原町竹割

継承されている十二番の内、柴鬼人舞はこの神楽
独特のもので、(三月の社日祭)

大塚八幡神社春神楽

「大塚八幡神社」宮崎市大塚町原ノ前(三月)

加江田神社春神楽

「加江田神社」宮崎市大字加江田(三月)

小松里神楽「小松神社」宮崎市大字小松(三月)

高屋神社神楽「高屋神社」宮崎市村角町橋尊
社日祭で、五穀豊穰を祈って奉納される。厄払い
もかねているため、この日に厄年にあたる男性が
神楽座に出席する。(三月)

竹の子神楽「名田神社」宮崎市内北方町下郷
竹の子の季節に舞われるので竹の子神楽と呼ば
れる。五穀豊穰、家内安全、無病息災を祈って舞
われる。(三月下旬・四月下旬)

奈古神社春神楽

「奈古神社」宮崎市南方町御供田

鬼神の舞ともいわれる神楽です。(三月)

新名爪神楽「新名爪八幡神社」宮崎市新名爪

(春と秋の社日祭)

野島神楽

「野島神社」

宮崎市大
字内海野島

国道二二〇号線

沿いにアコウの木々に囲まれている神社がある。こ
こで、唐の時代のものとも伝えられる独特の風貌
の神楽面で舞われる。動きも激しく開放的な舞
である。(十二月)

八幡神社神楽「八幡神社」宮崎市大字島之内
(三月と九月の社日祭)

火祈禱神楽「白髭神社」宮崎市大字有田字宮下
収穫祭と四十二才男子の厄払い、それに鎮火祭



●野島神楽

を兼ねて四・五番が奉納される。(十二月)

広原神楽「広原神社」宮崎市大字広原

三月と九月の社日祭には二十三番が舞われ、十二
月の秋の大祭にはチビッコ広場で舞われる。テンポ
の早い変化に富んだ神楽です。

吉村八幡神楽

「吉村八幡神社」宮崎市吉村町宮ノ脇

豊作を願って氏子青壮年約二十名で舞われる。

(三月)

※祭りの日程は、変更する場合があります。



古代文化をしのぶ史跡公園 蓮ヶ池横穴群

(国指定史跡)

宮崎市

古墳時代後期、六～七世紀になると古墳がそれまで権力を示すための壮大な高塚墳から、家族墓としての性格をもつ横穴墓へと移行していきませんが、蓮ヶ池の横穴群はまさにそれを物語っています。

現在までに八十を超える横穴が発見されており、日本における群集墓の南限として、昭和四六年に国の史跡に指定されています。



●蓮ヶ池横穴群

周辺はみやざき歴史文化館を中心とする「蓮ヶ池史跡公園」として整備され、宮崎の歴史や文化を楽しみながら学べる場として、また市民の憩いの場として親しまれています。



●みやざき歴史文化館

古代南九州と畿内の交流を示唆する 生目古墳群

(国指定史跡)

宮崎市

宮崎市西部、大淀川にほど近い跡江台地に広がる生目古墳群には、二十七基(前方後円墳七基、円墳二十基)の古墳が集まっています。

なかでも特徴的なのは、全長百メートル級の前方後円墳が三基も含まれていることで、これは近畿以西では西日本唯一のもの。国内最大級の古墳群である西都原古墳群に先行して築かれた古墳があることなども指摘されており、宮崎の古墳時代の興隆の基礎を築いた重要な遺跡です。昭和十八年に国

の史跡に指定されています。

天孫降臨伝説や海幸彦・山幸彦伝説など、古事記の舞台となった宮崎には、古代のローンを想像させる史跡が多くあります。この生目古墳群もそのひとつで、畿内やマツ文化のシンボルといえる前方後円墳がこれだけの規模で残っていることは、古代南九州とヤマト地方が深く関連していたことを示唆するものでもあります。

宮崎市ではこの生目古墳群を歴史の生きた学習の場として市民に親しんでもらおうと、平成二十年に史跡公園として整備しました。公園内には多くの自然が残されており、古墳を見学するだけでなく、四季折々で森林浴や自然観察

を楽しむことができます。また、これまでの発掘調査で発見された出土品は、「生目の杜遊古館」で見ることができます。



●整備の進む生目古墳群

大小三百基の古墳がある国内最大の古墳群 西都原古墳群 (国指定特別史跡)

宮崎市
周辺

西都原古墳群は大小約三百基の古墳が集まる国内最大の古墳群。なかでも最大級の男狭穂塚、女狭穂塚はそれぞれ迹述芸命と木花佐久夜姫の墓であるとされ、宮内庁の御陵墓参考地に指定されています。

貴重な歴史遺産として昭和二十七年には国の特別史跡に、昭和四十一年にはわが国で初めての『風土記の丘整備事業』にも選定されている西都原古墳群ですが、本格的な調査はこれまでほとんど行われていないこともあって、その神秘に包まれたイメージが歴史

ファンのロマンをかりたててきました。

平成七年、文化庁の『大規模遺跡総合整備事業』への選定とともに約八十年ぶりの本格調査と保存に向けて

の整備が始り、西都原の歴史資料としての価値が次々に明らかになってきています。

復元された鬼の窟古墳

六世紀後半から七世紀初めに造られたといわれる鬼の窟古墳は、土塁を持つ円墳として国内に例がない非常に珍しいもの。

西都原古墳群で唯一の横穴式石室を持ち、首長クラスの墓であるといわれているこの古墳は、現在、築造当時の姿にもどす復元工事を経て一般に公開されています。

石室の石組を組み直すとともに、これまで入れなかった横穴式石室に照明をつけることで、内部の見学もできるようになっています。

西都原の資料館

西都市には西都市歴史民俗資料館と県立西都原考古博物館の二つの資料館があり、舟形はにわ、子持家形はにわ(共に国重文複製)、三角縁神獣鏡、金銅製馬具(国宝複製)など珍しい出土品が展示されています。



●鬼の窟古墳



●神代神楽



神武天皇お船出の地の伝説が伝わる

美々津

宮崎県
周辺

天然の良港として古くから関西方面との
交易で栄えた美々津。その繁栄ぶりは美々
津千軒という言葉にも残っていますが、交易
港としての歴史を刻んできたこの地には、古
事記に描かれた神武東征のお船出の港であ
るという伝説が残されています。

のちに神武天皇となる神倭伊波礼毘古
命が四十五歳の時、兄の五瀬命と語らって兵
を率い、東をめざして美々津の港を船出さ
れたと伝えられる神武東征伝説。今でも周
辺に地名の残る「神立山」から材木を伐り

出して船を造り、沖
で航海の訓練を行
い、「遠見」の山か
らは毎日風を揚
げて風向きを調べ
るなど出港の準備
を進めるうちに、
船出の日は八月二
日(旧暦)と決ま
ります。ところが、
潮や風の加減が

ちようど良いという物見番からの知らせで、
急遽船出は一日早まり八月二日の夜明けに行
うことに。そこで未明から家々を「おきよ、
おきよ」と戸を叩いて起こしてまわったとい
うことにちなんで、美々津では毎年八月一日

未明に「おきよおきよ
祭り」が行われています。
また、この時に人々が
急ごしらえで作った「つ
きいれ団子」も、美々津の名

物として伝わっ
ています。

美々津沖には
竜神バエという大
きな岩礁があり
ますが、このこと陸
地の間にある瀬戸(水道)を通じて東征の船
は出てゆき二度と戻ってこなかったというこ
とから、地元ではその後、船出にこの瀬戸を
通ることはなかったといわれています。

参考文献

●「古事記の世界」(西郷親綱著) ●「古事記」/岩波文庫 ●「日本の神話と十大昔話」(楠山正雄著)/講談社
学術文庫 ●「宮崎のむかし話」(比江島重孝著)/勉誠社 ●「古事記の世界」(川副武風著)/教育社 ●「宮崎
県の歴史」(日高次吉著)/山川出版社 ●「みやざきの謎」(三又喬著)/西日本新聞社 ●「新みやざきの謎」(三
又喬著)/西日本新聞社 ●「新訂古事記付現代語訳」(武田祐吉訳註) 中村啓信補訂・解説/角川文庫 ●「古
事記 祝詞」(倉橋憲司・武田祐吉校註)/日本古典文学大系1 岩波書店 ●「加江田溪谷と青島・内海海岸」(池
内捨市著)/勉誠社 ●「宮崎県地名大辞典」(野口逸三郎、柳宏吉編)/角川書店

日本海軍発祥の碑



耳川河畔にある立磐神社には神武天皇ゆかりの「御腰掛岩(おんこしかけいわ)」や、「日本海軍発祥の碑」があります。また周辺の地名である「立縫(たてぬい)」は、神武天皇の裾のほころびを立ったまま縫わせたことから起こったと伝わり、船出準備に奮闘した神武天皇の姿をほうふつとさせています。



●古い町並みを残す、美々津町並保存地区



宮崎市神話MAP



神話めぐりルートマップも
ご覧ください

“神話の舞台へご案内”

宮崎市神話・観光 ガイドボランティア

ご案内場所 **みそぎ池** **江田神社** **青島神社** **宮崎神宮** **平和台公園**

お問い合わせ (社) 宮崎市観光協会

〒880-0805 宮崎市橘通西1丁目1番1号 TEL.0985-20-8658 FAX.0985-28-3614

<http://www.miyazaki-city.tourism.or.jp/>